

信州  
小諸紀行

高原の城下町小諸

KOMORO

文学碑めぐり



文豪 島崎藤村

東京から90分

高原のパノラマ鉄道で文学の里へ



# 懐古園内の歌碑句碑めぐり

## ① 木村熊二塾長レリーフ

われらの父木村熊二先生と  
旧小諸義塾の記念に  
「門弟並有志 島崎藤村書」



## ② 一師二友の歌碑

此の夕べ外山とこゆる秋風に  
稚もくぬぎも音たてにけり  
大田水穂  
高らかに歌ひつづけむ大らかに  
人をも身をもたへんと思ふ  
土屋残星  
しら雪にあけぼの白ふ浅向山  
けむりしずめて高くそびゆる  
宮坂古染



信州歌壇先進の歌人、太田水穂と門下の友人土屋残星・宮坂古染の功績をたたえて建てられた。

## ③ 酔月城花紅句碑

頌亭花に  
名の立つ山や  
初霞  
牧野康満公



## ④ 若山牧水歌碑

かたばらに秋くさの  
花かたるらくほろびしものは  
なつかしきかな



## ⑤ 牧野耕雨句碑

秋立つや  
大樹の上の  
流れ曇  
牧野康強公



## ⑥ 藤村詩碑(千曲川旅情のうた)

小諸なる 古城のほとり  
雲白く遊子悲しむ……



明治三十二年小諸義塾に教師として招かれた藤村は七年間小諸で過ごし、詩の世界から小説の世界へと移っていく。

## ⑦ 幕末三舟の碑

1 佐々木如水先生書  
天地の赤りあひのまけみ魄は  
すのらみ園に仕てしかな



## ⑧ 「懐古園の碑」



## ⑨ 貞明皇后歌碑

夏の日のながき日ぐれし  
桑畑に染みる音の  
またたえぬかな



## ⑩ 虚子句碑

紅梅や  
旅人我に  
なつかしき



## ⑪ 横山祖道書句碑

雲水乃  
草笛哀し  
らくまが和(旅人詠)



## ⑫ 入江為守歌碑

千久ま川  
古城にそびていにしへと  
かたりがほなる 水の音かな



## ⑬ 白田垂浪句碑

雪散るや  
千曲の川音  
立ち来り



## ⑭ 惜別の歌歌碑(藤村原詩)

遠き別れに  
耐えかねて……



## ⑮ 白田垂浪句碑(鹿嶋神社境内)



題字 山岡 鉄舟  
本文 高橋 泥舟

郭公や  
何處迄ゆかば  
人に逢はむ

# 北国街道沿い歌碑句碑めぐり

## ① 虚子笠石句碑

(野岸幼稚園入口)

秋晴の  
浅間仰ぎて  
主客あり



## ② 虚子句碑

(虚子記念館入口)

葉を真し  
それしめじの  
籠をさげ



## ④ 虚子句碑(八幡神社)

立科に  
春の雲  
今うごきどり



## ⑤ 虚子句碑(虚子庵庭)(駅よりタクシー5分)

人々に  
更に紫苑に  
名残あり



## ⑭ 虚子句碑(小山野)

風花に  
山家住いも  
早や三年



昭和十九年四月鎌倉から小諸野岸に疎開、三年間小諸で過ごし、「小諸百句」を出版した。住居跡は虚子庵として残っている

## ⑧ 白田亜浪句碑(養蓮寺境内)

浅間嶺の  
月涼しけれ  
影を遣ふ



## ⑩ 一師二弟の句碑

(青木神社境内)

浅間中富士へ  
春曉の流れ雲  
白田亜浪  
千曲野や  
かへりみすれば  
遠かんこ  
伊東好子  
夢深き  
花を鎮めて  
お城の燈  
高橋平城



## ⑫ 白田亜浪生誕地碑

明治十二年小諸市新町生まれ。本名卯一郎。和仏法律学校(現法政大学)を卒業し「石楠」を創刊、求道的傾向の句風と季感の自由を主張した。



## ③ 若山牧水歌碑(新町・宮坂邸)

幾山河  
こえさりゆかば寂しさの  
はてむじ園ぞ  
けふも旅ゆく



## ⑥ 芭蕉句碑(成就寺裏の墓地)

桜狩り  
まじくや日々に  
五里六里



旅の詩人牧水は、明治四十三年、小諸市市町の旧本陣屋敷(旧田村医院)の二階に二ヶ月滞在した。当時二十五才の牧水は、土地の歌人と浅間山麓に出かけている。

## ⑩ 宮坂古梁歌碑(新町・宮坂邸)

陽に笑みよ  
おのれ、ほるる落ら栗の  
山に響きて  
山は寂けき



明治十七年東郡町生まれ、本名宮坂常。信越新聞の特派員として小諸に居住し若山牧水を小諸に迎える。後小諸町長として郷土文化向上に尽した。

## ⑪ 藤村詩碑

(千曲川旅情のうた) 新町宮坂邸  
昨日またかくてありけり  
今日もまたかくてありけり



## ⑦ 藤村旧栖地碑

藤村は明治三十二年奏冬子と結婚し、ここに新居を構え、明治三十八年まで生活した。碑文は有鳥生馬の白筆。



# 郊外の歌碑句碑めぐり

**① 荻原井泉水句碑(菱野温泉)**  
今け雲と噴く  
火の山の  
若葉なり  
(駅からタクシー20分)



明治十七年東京に生まれる。本名荻原藤吉。同四十四年、碧梧桐主宰のもとに「層雲」を創刊。ゲーテの短詩、シラ1の二行詩に注目し俳句の新しい理論と実践を志した。

**② 稻室竜洞の歌碑(菱野温泉)**  
鎌倉時代の歌人(年号不詳)僧となり  
全国各地を巡り歩き当地で湯を発見した。  
此の山の  
河やけき月に湯の煙  
瑠璃の光の  
影や満すらん



鎌倉時代の歌人(年号不詳)僧となり全国各地を巡り歩き当地で湯を発見した。此の山の河やけき月に湯の煙瑠璃の光の影や満すらん

**③ 白田亜浪句碑(菱野)**

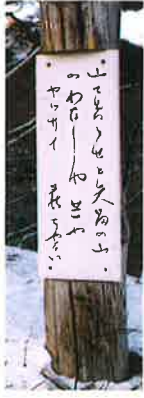


郭公や  
葉師立たせる  
山の霧

**④ 野口雨情歌謡碑(菱野温泉)**  
薬師温泉 菱野の元湯  
水も 湯槽に  
ヤッサイ かけ流す



**⑦ 野口雨情歌謡碑(菱野温泉)**  
山下暮せと 矢留の山の  
わたしゃ 芒や  
ヤッサイ 萩じゃない



**⑤ 野口雨情歌謡碑(菱野温泉)**



山も谷間も  
緑のはのは 菱野温泉  
ヤッサイ 夏が来る

**⑥ 野口雨情歌謡碑(菱野温泉)**  
つ、みきれずに  
長峰山の秋の紅葉で  
ヤッサイ 色に出る



詩人、明治十五年茨城県生まれ。文語、口語両様の新体詩を模索。大正期の童謡運動や歌謡曲の作詞に活躍した。菱野温泉にも滞在し、歌謡を詠んでいる。詩集「都会と田園」ほか著書多数。



**① 一茶句碑(仏舎利塔入口)**  
精霊も  
立ちふる廻の  
月夜かな  
(駅からタクシー10分)



**① 松尾芭蕉句碑(天池)**  
山路未了  
何やらゆかし  
すみれ草  
(駅からタクシー15分)



**③ 宮坂古梁歌句碑(小諸善光寺境内)**  
夕日影  
わが仰ぐ山にさし添ひて  
暮る、を待てば  
しづかなるかも  
ら、母の  
しだれ桜かな  
(駅からタクシー10分)



**② 藤村初恋詩碑(松井)**  
まだあげそのし前髪の  
りんごのもとに見えしとき  
前にさしたる花ぐし  
花ある君と思いきり



坂の上(至小諸駅)  
R18



# 高峰高原チェリーパークライン歌碑句碑めぐり

① 臼田亜浪句碑  
ふるさとを  
山路がかりに  
秋の基



明治十二年、小諸市新町生まれ。本名は卯一郎。和仏法律学校(現法政大学)を卒業し、「石楠」を創刊、求道的傾向の句風と季感の自由を主張した。

② 小林葛古句碑  
秋たつや  
呼べばうなづく  
人の問



小諸市八満生まれ。本名は勝右衛門正美。宮本虎杖に師事(虎嶺庵梅齋と号した)。後、倉田葛三に師事し葛古と改号。

③ 尾上柴舟歌碑  
なまぬくまの白濁たせし山ぎくら  
咲き極まれば雨呼ぶらしむ



歌人、国文学者、書家。小出繁、大口彌二の門に入りする。写真主義の短歌運動を進め、前田夕暮、若山牧水らと車前草社結成。

④ 臼田亜浪句碑  
あけぼのや  
露とくしくと  
山桜



稲妻や  
びつくりさせて  
あとのなき

⑤ 正木不如丘句碑  
親玉の  
後の子玉や  
シャボン玉



上田市生まれ。本名俊二。父の仕事の関係で大学入学まで小諸市相生町ですごした。連載小説「診療簿余白」で作家として有名になる。

⑥ 若山牧水歌碑  
しらたまの歯にしみとほる秋の夜の  
酒はしづかにのむべかりけり



⑦ 正木不如丘句碑  
穴城に  
名ある小諸や  
虫の声



⑧ 丸山晚霞句碑  
雨晴れて  
梢の若芽の  
銀色に



東部町生まれ。欧米遊学後、小諸義塾の教師時代、島崎藤村とは同僚の間柄。晚霞は山岳画家(水彩)の第一人者として知られているが、臼田亜浪とも親交を結び俳句もたしなんだ。

⑨ 小林葛古句碑  
稽草や  
びつくりさせ  
あとのなき



⑩ 源実朝歌碑(藤村書)  
春雨はいたくなふりそ林人の  
道ゆき夜ぬれもこそすれ



この句は、金槐和歌集の源実朝の短歌であるが、藤村直筆の色紙が懐古園の藤村記念館に保存されている。

⑪ 小林一茶句碑  
五月雨や  
線香立てし  
たばこ盆



上水内郡信濃町生まれ。江戸での泰公中、其日庵素丸に師事。三十歳頃から各地を放浪し、晩年は柏原村(現信濃町)に戻り北信俳壇を指導した。

⑫ 高浜虚子句碑  
山園の  
蝶を流らし  
思はずや



近代文学を築いた露伴が、初めて小諸を訪れたのは大正十年。その二年後、浅間山麓清水に「池西庵」と名付けた別荘を建て、昭和十一年まで夏にはしばしば小諸を訪れている。

⑬ 幸田露伴歌碑  
こほりなす清水あふれて火のもゆる  
山のおとこ夏なかりけり



⑭ 小林一茶句碑  
昼の蚊や  
だまりこくつて  
うしろから



⑮ 高浜虚子句碑  
遠山に  
日の当たりたる  
枯野かな



## 小諸へのアクセス

- 各施設の観覧料など  
観光に関するお問い合わせ  
小諸市観光協会  
TEL 0267-22-1234  
小諸市商工観光課  
小諸市大手1-6-16 小諸観光交流館  
TEL 0267-260210  
FAX 0267-260211  
http://www.city.komoro.nagano.jp/
- 懐古園に関するお問い合わせ  
小諸市懐古園事務所  
TEL 0267-220296  
FAX 0267-250296  
宿泊・観光のご案内  
観光案内所  
TEL 0267-250296  
FAX 0267-250296
- 鉄道  
長野新幹線(東京→小諸90分)  
● 特快列車(小諸下車)の停車時間約15分  
● 安芸線(小諸)下車後徒歩約15分
- 東京から  
● 東京 軽井沢 小諸 小諸  
● 東京 軽井沢 小諸 小諸  
● 東京 軽井沢 小諸 小諸
- 新宿から  
● 新宿 中央線特快 小諸 小諸  
● 新宿 中央線特快 小諸 小諸
- 大阪・名古屋から  
● 大阪 名古屋 小諸 小諸  
● 大阪 名古屋 小諸 小諸
- 東京から  
● 練馬 IC 藤岡 JCT 上野原 JCT 小諸 IC  
● 練馬 IC 藤岡 JCT 上野原 JCT 小諸 IC
- 吹田 IC 小牧 JCT 小諸 IC  
● 吹田 IC 小牧 JCT 小諸 IC
- 岡谷 JCT 東通 JCT 小諸 IC  
● 岡谷 JCT 東通 JCT 小諸 IC
- 空路一車  
● 大阪空港 松本空港まで  
● 大阪空港 松本空港まで
- 塩尻北 IC 更埴 JCT 小諸 IC  
● 塩尻北 IC 更埴 JCT 小諸 IC

⑬ 森 禮子文学碑  
毎年季節を心待ちにして小諸の春に  
逢いに来る芽吹きは落葉松林のあいだに  
ひっそりと咲く桜に天上からの音信を聞く



昭和二十五年から「九州文学」に作品を発表し始め、昭和五十五年「モッキングボードのいる町」で芥川賞受賞。小諸市石時に別荘がある。

⑯ 宮坂古梁歌碑  
一山に鳴り響きたる春の雷  
あとなくはれて桜かがやく



⑰ 富安風生句碑  
小諸とは  
雨の涼しき  
坂の町



風生は、雑誌「若葉」を主宰し多くの俳人を養成した。県内にも西本二都、藤岡筑前ら弟子も多い。彼の姪が小諸へ嫁いでいたことから、何度か小諸を訪れている。

⑱ 高浜虚子句碑  
遠峰の  
高嶺々に  
夏の雲



虚子は昭和十九年、七十歳の時小諸に疎開。疎開中「ホトトギス」に「小諸去り難し」と題した文を載せたり、「小諸百句」「小諸雑記」等を出版した。

⑳ 伊東深水句碑(此君亭)  
凍る嶺の  
一つ嶺火噴き  
はばからず



虚子の俳句会に出席し深い感銘を受け俳人の道を歩み始める。「ホトトギス」「馬酔木」を経て、戦後は「天狼」同人として「七曜」主宰者として活躍。弟子のいた小諸へは、しばしば立ち寄っている。

㉑ 清水春蛙川柳句碑  
故郷の川  
同じ所や  
渦と巻き



㉒ 伊東深水句碑(此君亭)  
おく霜や  
浅間の峰に  
あかねさす



虚子の俳句会に出席し深い感銘を受け俳人の道を歩み始める。「ホトトギス」「馬酔木」を経て、戦後は「天狼」同人として「七曜」主宰者として活躍。弟子のいた小諸へは、しばしば立ち寄っている。